



新年のご挨拶



群馬県中小企業団体中央会

会長 金子正元

明けましておめでとうございます。
日本経済は、戦後最長の景気回復局面に迫るといわれているものの、依然、実感のない状況にあります。

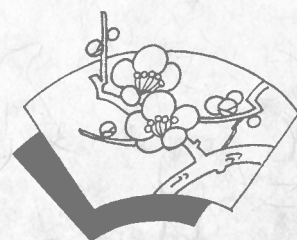
私も中小企業・小規模事業者では、人手不足、原材料高騰の中、働き方改革、消費税率アップ・軽減税率への対応が喫緊の課題となっております。また、TPPへの期待と米中貿易摩擦による国際貿易の変容に対する不安など、海外との関係を注視する他方で、日本の製造業への信頼が揺らいでいることを懸念しています。
地域の経済・雇用を支える中小企業・小規模事業者が、直面する多様な課題に対応していくためには、個々の自助努力に加え、中小企業組合をはじめとする連携組織での取組みが重要です。

組合を活用した共同購買、共同受注、人材育成やまちづくりの推進、さらに消費税、働き方

改革や事業承継対策など、個社では困難な経営課題に対応できるのが、中小企業組合であり、私も中央会の会員であります。昨年は、大規模な災害が全国各地で発生しましたが、行政と連携した災害復旧の支援や、被災時の代替生産、要員確保など、災害に対する組合の強みも期待されています。

群馬県においては、昨年のジエトロ群馬貿易情報センターの開設、来年の東京オリンピック開催前に予定される群馬コンベンションセンター「Gメッセ群馬」のオープン、JRと連携したステイネーションキャンペーンの実施など、「人・モノ・情報」が集まり、群馬の自然、産業などの魅力を発信する仕組みが次々と誕生します。我々県内企業、観光地でも大いに期待しております。

本会としても、群馬県、国等関係機関の施策や事業と連携し、新たな事業を展開する組合の



設立、組合運営の支援を柱に、消費税や働き方改革への対応、改正入管法を踏まえた外国人技能実習制度の適正指導など、組合対象の事業を行うとともに、ものづくり補助金地域事務局として補助金交付や交付後の販路開拓等をサポートするなど、個別企業の支援も行って参ります。
改元の歴史的な本年が、県内の中小企業・小規模事業者にとりまして実り多き一年となりますよう、心から祈念申し上げますとともに、県内経済が元気になるよう取り組んで参りますので、一層のご支援・ご指導をお願い申し上げます。

平成三十一年元旦

新年のご挨拶



群馬県知事

大澤 正明

明けましておめでとうございます。

群馬県中小企業団体中央会の皆さまには、すがすがしい新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年は新年早々に、前橋育英高校が全国高等学校サッカー選手権大会で初優勝を成し遂げ、県民に大きな夢と感動を与えてくれました。

産業の分野では、30年上期の工場立地件数・面積において、いずれも群馬県が全国1位となりました。件数・面積が共に1位となったのは初めてであり、本県の交通環境の優位性や拠点性の高さが総合的に評価され、大変うれしく思っております。

その一方で、将来にわたって本県が持続的に発展していくためには、人口減少問題への対応が急務となっております。本県へのU・I・ターンの促進や、女性・若者・高齢者・障害者など全ての人が本県で働き続けられる環境の整備が必要

となっております。

このような中、今年には県政の羅針盤である「第15次総合計画」の最終年度を迎えます。総合計画の3つの基本目標である「人づくり」、「安全・安心な暮らしづくり」、「産業活力の向上と社会基盤づくり」の実現に向け、全庁一丸となって取り組んでまいります。

まず「人づくり」では、特別支援学校について、昨年4月に高等部の未設置地域を解消したところですが、引き続き必要な施設整備や、就業支援にしっかりと取り組み、障害のある子どもたちが、地元で育ち、学び、働くための環境づくりをさらに進めます。

次に「安全・安心な暮らしづくり」では、昨年発生した本白根山噴火による被害や県防災ヘリコプター「はるな」が墜落するという大変痛ましい事故を受け、自然災害に対する防災減災対策の推進と、防災航空体制の再構築に強い決

意で取り組みます。

また31年度には八ッ場ダムがいよいよ完成する予定です。ダム完成に合わせ、地元住民の方々が安心して生活が送れるよう、生活再建事業をしっかりと推進します。

さらに「産業活力の向上と社会基盤づくり」では、来春の開所に向け、群馬コンベンションセンター「Gメッセ群馬」の建設を着実に進めるとともに、誘致活動や県内事業者の参入支援などを充実させ、交流人口の増加による新たな経済需要の喚起や女性・若者が活躍できる雇用の場の創出につなげます。

こうした取組を着実に前進させていくためには、地域社会の中で大きな役割を担い、本県経済を支えている中小企業の活力が不可欠です。中央会の皆さまには、中小企業の連携や組織化の推進を通じて、県内企業の経営力向上や経営基盤の強化に御尽力いただいております。県としても、皆さまと力を合わせ、中小企業の活力が最大限発揮されるよう、さらなる支援に努めてまいりますので、引き続き、県政への御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、この1年が皆さまにとって健康で幸多い年になりますよう心から祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。

平成三十一年元旦





新年のご挨拶



全国中小企業団体中央会

会長 大村 功作

明けましておめでとございます。平成31年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年は平成の最後の年、そして新たな元号の幕開けの年となります。平成を締め括り、改元となる新年を迎え、大変身の引き締まる思いであります。

昨年は、都道府県中央会とともに「つながるひろげる 連携の架け橋」のスローガンの下、「平成30年度中央会の基本活動方針」に基づき、次のように①から⑤の5つの重点活動に取り組みました。本年は、数値目標を含めその成果を取りまとめ、見直すべき点は見直し、改善を図ってまいります。①「組合の今日的意義の確認・発信」は、新たに森下正 明治大学教授を委員長とする「中小企業組合のあり方研究会」を設置し、組合の新たな方向性・可能性を提示しな

がら、中央会による組合支援のあり方を検討してきました。本年は、先行事例を豊富に盛り込み中央会の伴走型支援に役立つ手引きとしても活用できる報告書に取りまとめます。②「事業承継の推進」は、組合員の廃業・脱退に歯止めをかけるべく組合を起点とした取組みを進めてきました。本年は、会社に加えて個人事業者の事業承継も推進してまいります。③「働き方改革への対応」は、ものづくり分野でのレディース中央会の誕生など女性の活躍が各地で見られました。本年は、同一労働同一賃金に関するガイドラインや対応のための取組み手順書などの周知・広報を図ってまいります。④「生産性向上の実現」は、ものづくり補助金を中心に設備投資を支援してきました。本年も引き続き税制措置を組み合わせたIT・設備投資の推進を行ってまいります。⑤「被災地支援、地方創生」については、昨年発生した西日本豪雨、台風19〜21

号、北海道胆振東部地震の被災中小企業への対策支援を政府に要望してきましたが、自然災害については事前の対策が極めて重要であると考え、本年は、自家発電機等の災害関連設備の減税措置や、実効を図るためのBCP認定制度や損害保険の推進を図ってまいります。

本年10月には、消費税の税率引上げと複数税率の導入が行われます。消費税率引上げ後の反動減対策は、特に組合組織を上げての対策が極めて重要です。政府には万全の対策を求めてまいります。経営資源に乏しい中小企業・小規模事業者が頼るのは組合です。

また、本年は、ラグビーワールドカップが開催され、来年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。世界に日本の中小企業の魅力を発信する絶好の機会でありま

す。組合関係者にとりまして、本年が実り多き良き1年となりますことを心よりご祈念申し上げます。まして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成三十一年元旦



新年のご挨拶



株式会社商工組合中央金庫 前橋支店

支店長 櫻井浩嗣



平成31年の新春を迎えるにあたり、所感の一端を申し述べて年頭のご挨拶とさせていただきます。

昨年度のが国経済を振り返りますと、中小企業の景況感は持ち直しの動きがみられますが、人手不足を感じる中小企業は多く、今後も労働需給の逼迫による人件費負担の増加等が懸念されます。また、人口減少時代の本格到来やグローバル化の一層の進展が見込まれ、中小企業の経営ニーズは、一層高度化・多様化することが考えられております。

このような中、私ども商工中金は、中期経営

計画「商工中金経営改革プログラム」を策定し、中小企業専門金融機関として景気変動に左右されない金融スタンス、中小企業組合等を通じた面的な支援機能、国内外のネットワーク、短期資金を含めた幅広い金融機能、中立性を活かしたコーディネーター機能など、当金庫ならではの特性を活かした「経営支援総合金融サービス事業」を展開していくことを公表いたしました。具体的には、経営改善、事業再生や事業承継等が必要としている中小企業の皆さまや、リスクの高い事業に乗り出そうとしているものの課題に直面している中小企業の皆さまに対して、課題解決に繋がる付加価値の高いサービスの提供に重点的に取り組んでまいります。

「中小企業による、中小企業のための金融機関」として、皆さまから信頼され、お役に立てるよう、役員一同、全力で努力を続けてまいりますので、今後とも格別のご指導とお引き立てを賜われますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、皆さまのご繁栄とご健勝をお祈りいたしましてご挨拶いたします。

平成三十一年元旦